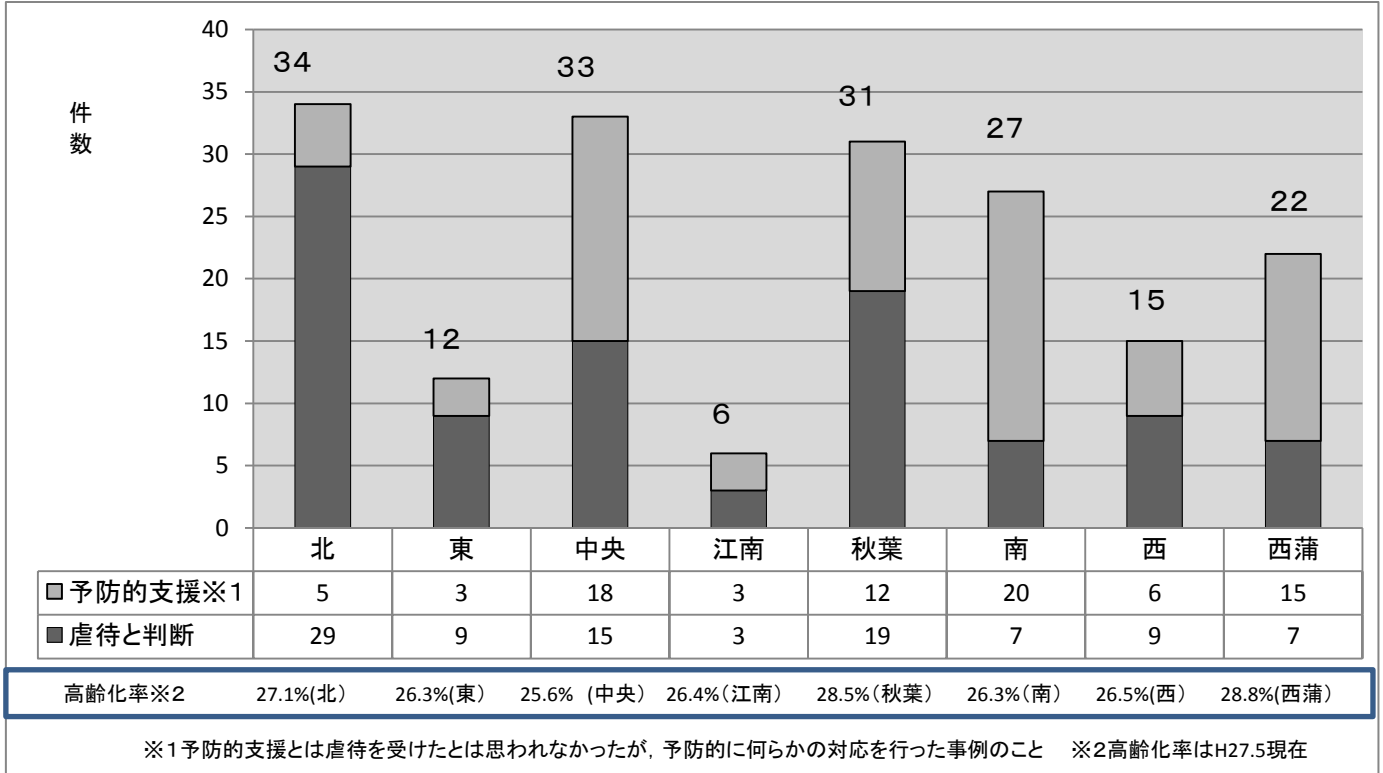


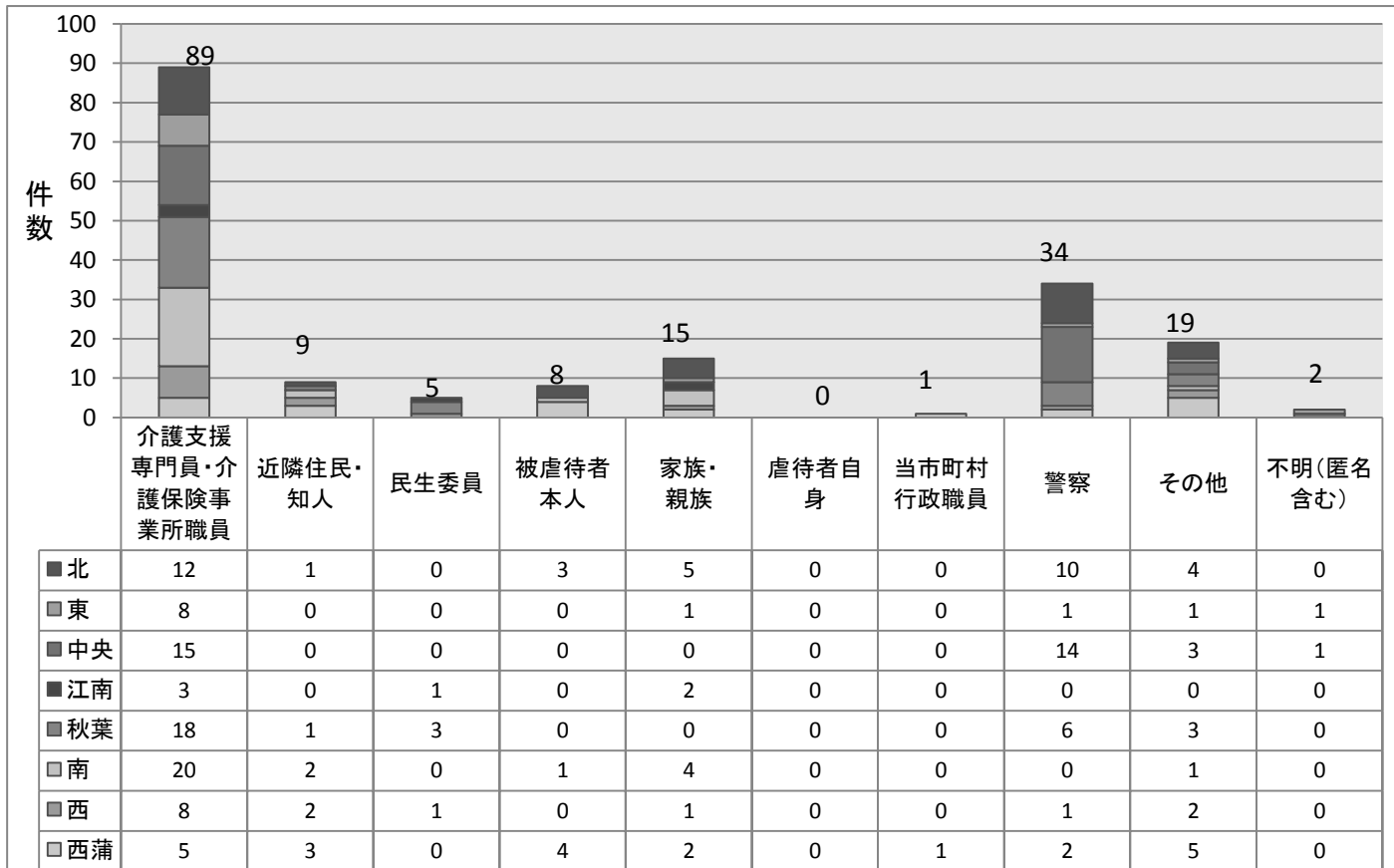
①相談・通報件数

n=180



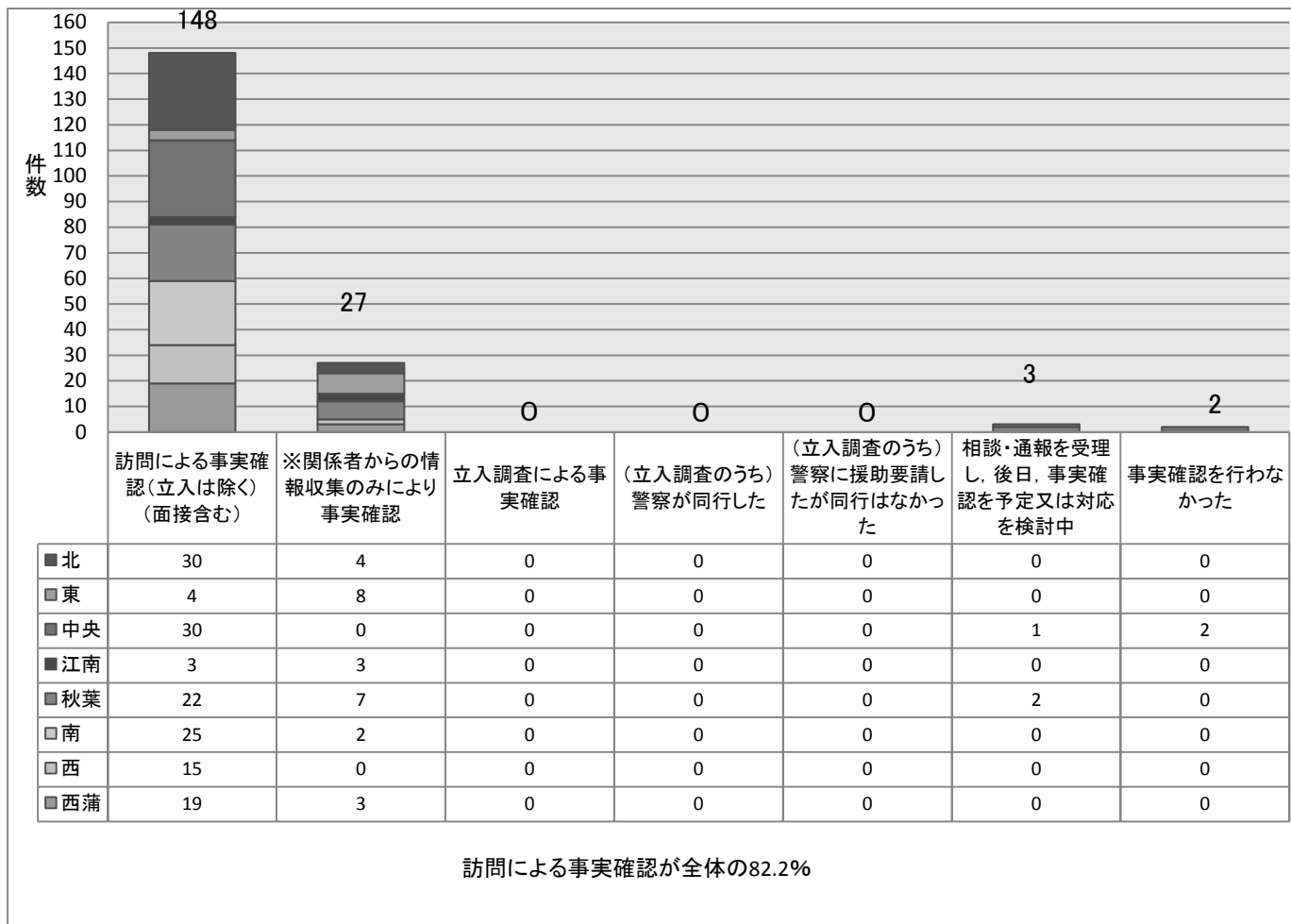
②虐待の相談・通報者(複数回答)

n=182



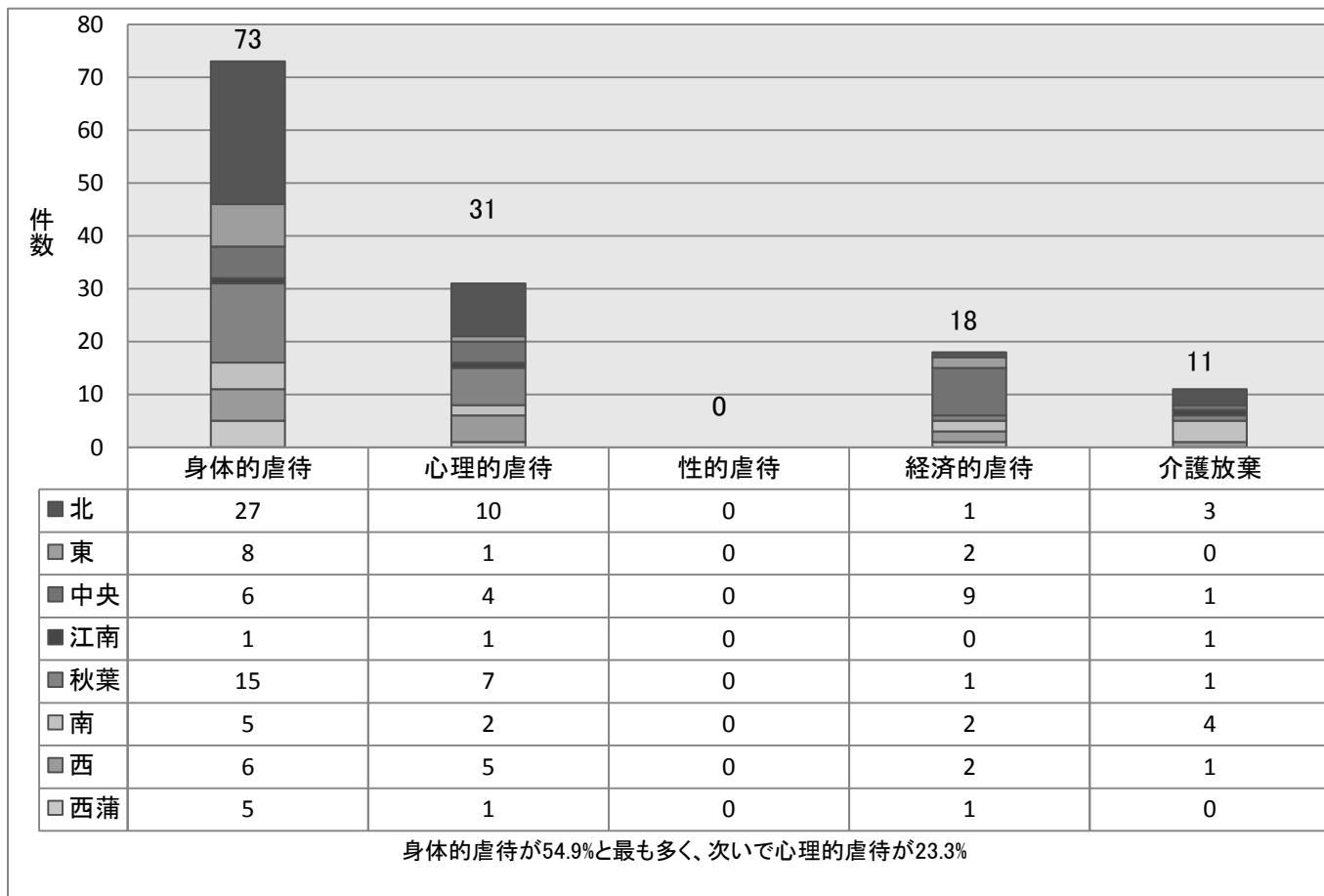
・介護支援専門員、介護職が48.9%と最も多く、次いで警察からの通報も18.7%と多く、次に多いものが家族、親族で8.2%  
 ・その他…病院、ケースワーカー、地域包括支援センター、児童委員、配達業者、自治会長、小学校 等

③事実確認の状況（事実確認を行った事例のうち、次年度に入って事実確認調査を行ったものも含むため n=180



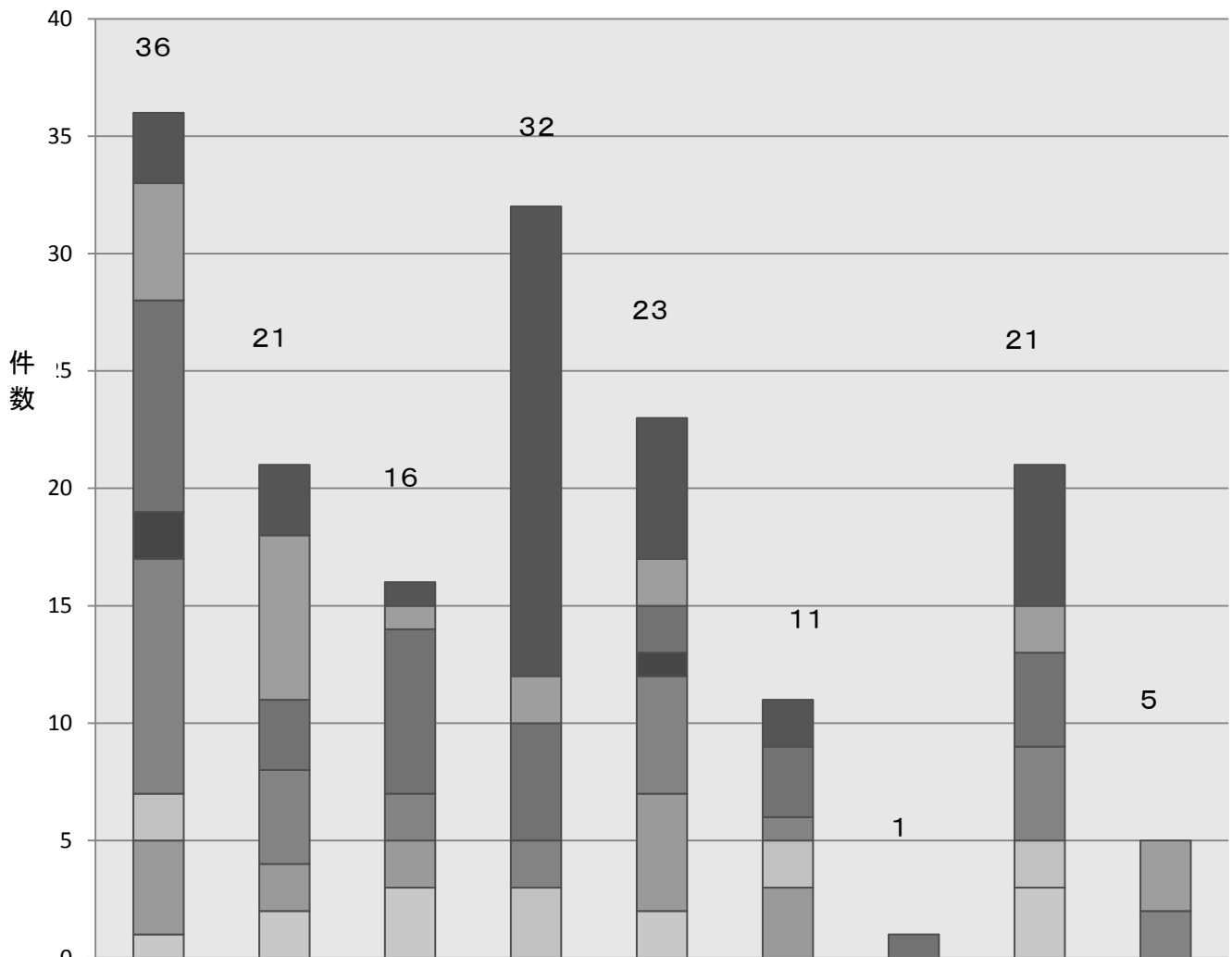
④虐待種類の内訳(複数回答)

n=133



⑤虐待の発生に影響を与えたとされる要因(複数回答)

n=166

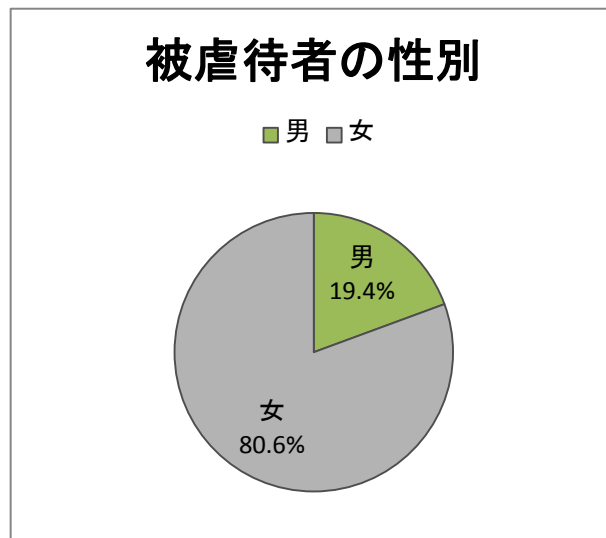
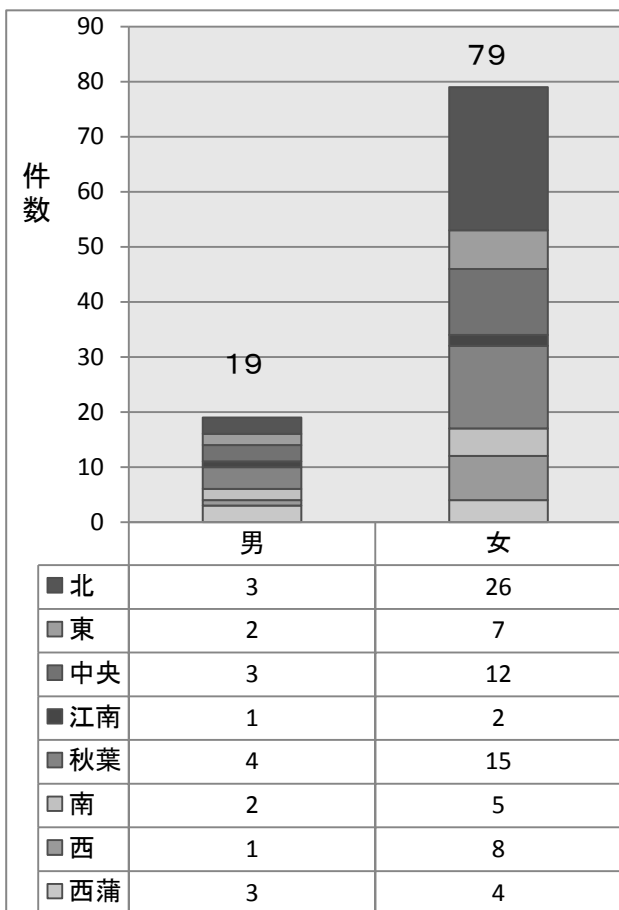


	本人と虐待者との人間関係	虐待者の精神疾患などの問題(アルコール依存等)	虐待者の経済的問題	虐待者に虐待認識がない	虐待者の介護疲れ	高齢者本人の性格や人格	高齢者本人の経済的問題	高齢者本人の認知症による言動の混乱	その他
■北	3	3	1	20	6	2	0	6	0
■東	5	7	1	2	2	0	0	2	3
■中央	9	3	7	5	2	3	1	4	0
■江南	2	0	0	0	1	0	0	0	0
■秋葉	10	4	2	2	5	1	0	4	2
■南	2	0	0	3	0	2	0	2	0
■西	4	2	2	0	5	3	0	0	0
■西蒲	1	2	3	0	2	0	0	3	0

・虐待に及ぶ一番多い理由は、高齢者本人と虐待者の人間関係21.7% 次いで虐待者に虐待行為の認識が欠如している19.3% 虐待者の介護疲れ13.9%であった

・その他・・・ 虐待者又は本人に精神疾患や性格にこだわりがある, 高齢者の疾患

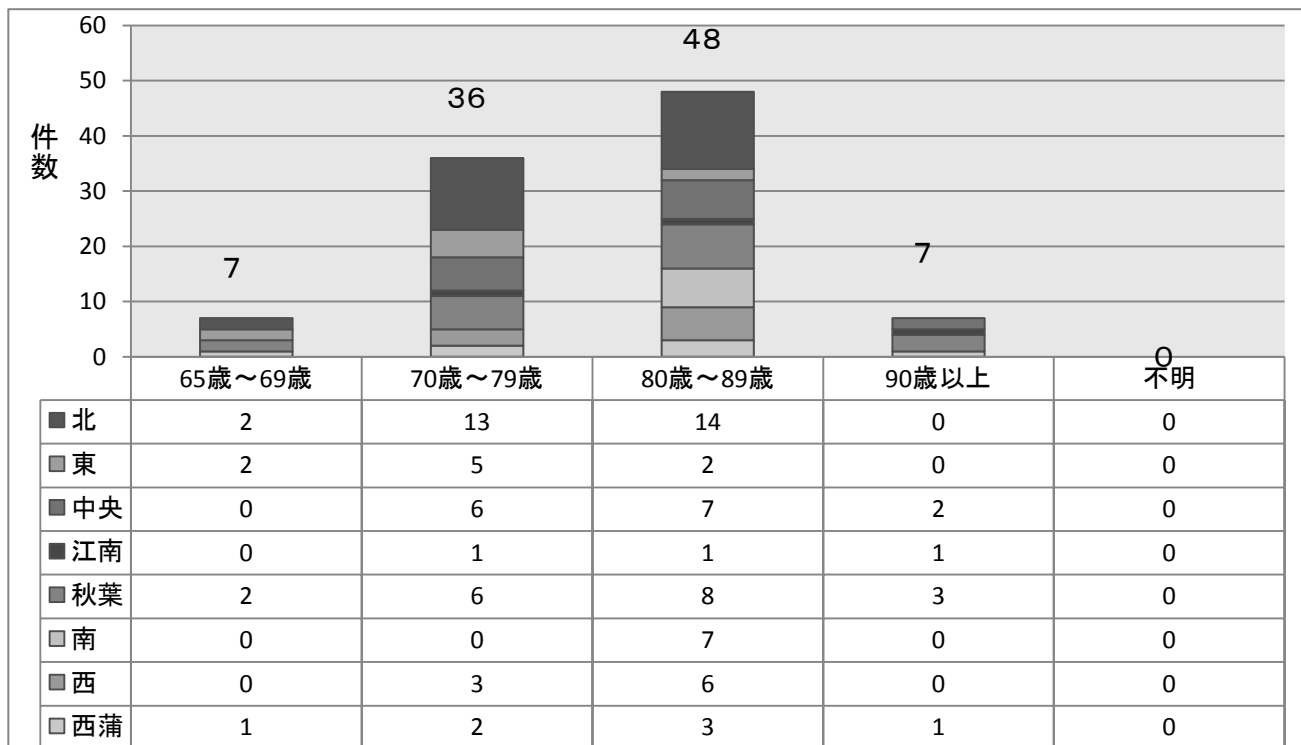
⑥被虐待者の性別 n=98



※約8割が女性である。

⑦被虐待者の年齢

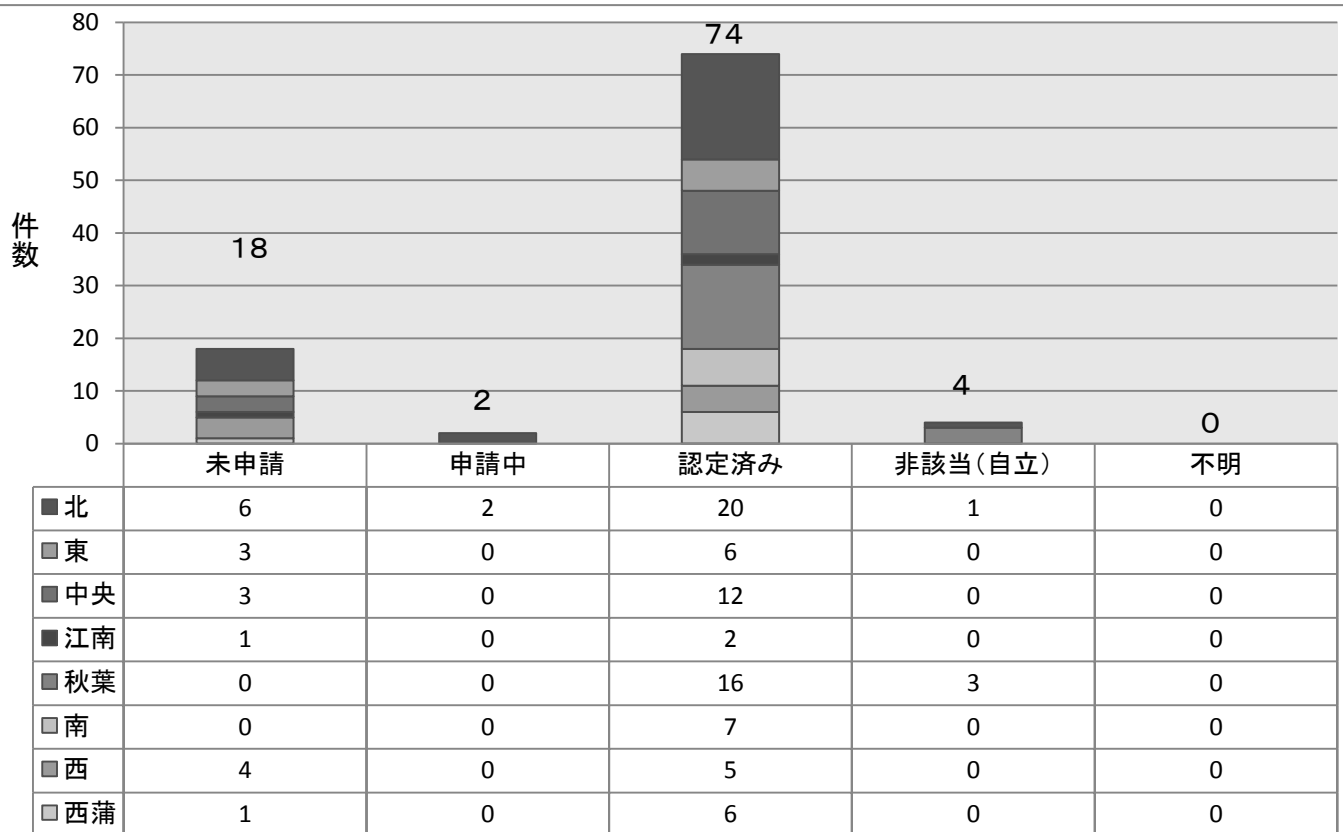
n=98



・80歳代が最も多く49.0% 次いで70歳代が36.7%

⑧被虐待者の介護認定の有無

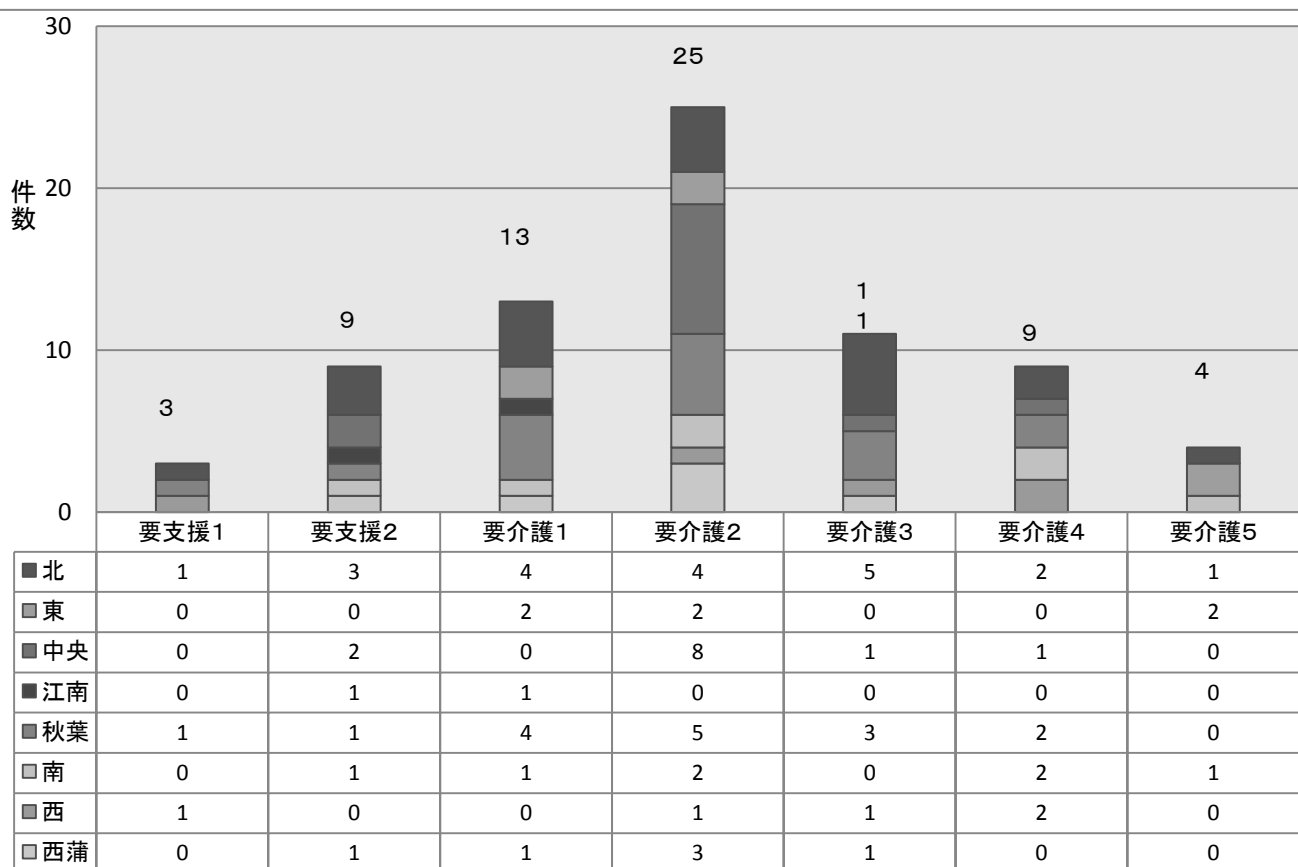
n=108



・介護認定者が全体の75.5%

⑨被虐待者の要介護度

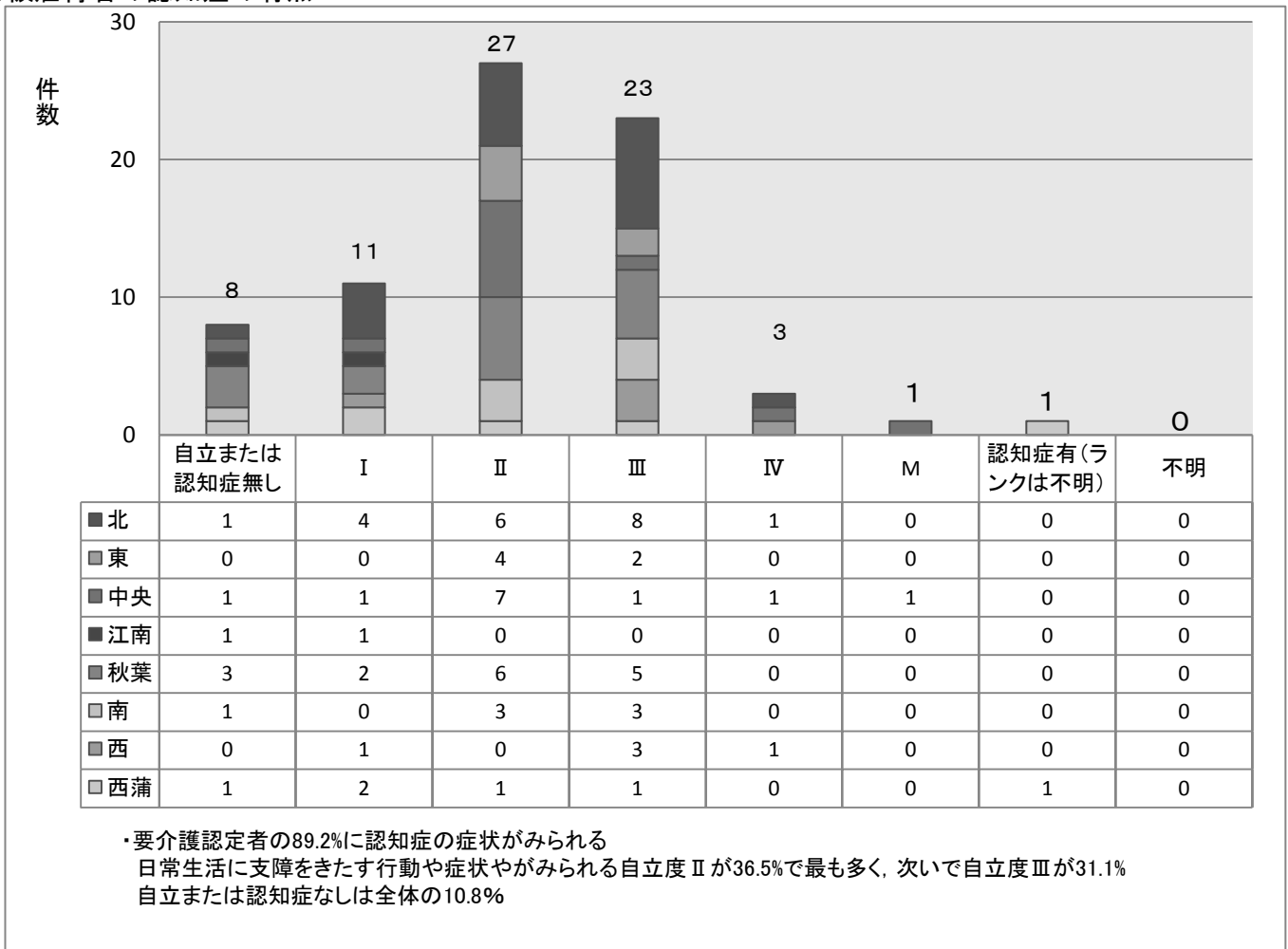
n=74



・要介護2が33.8%と最も多く、次いで要介護1が17.6% 次いで要介護3が14.9%

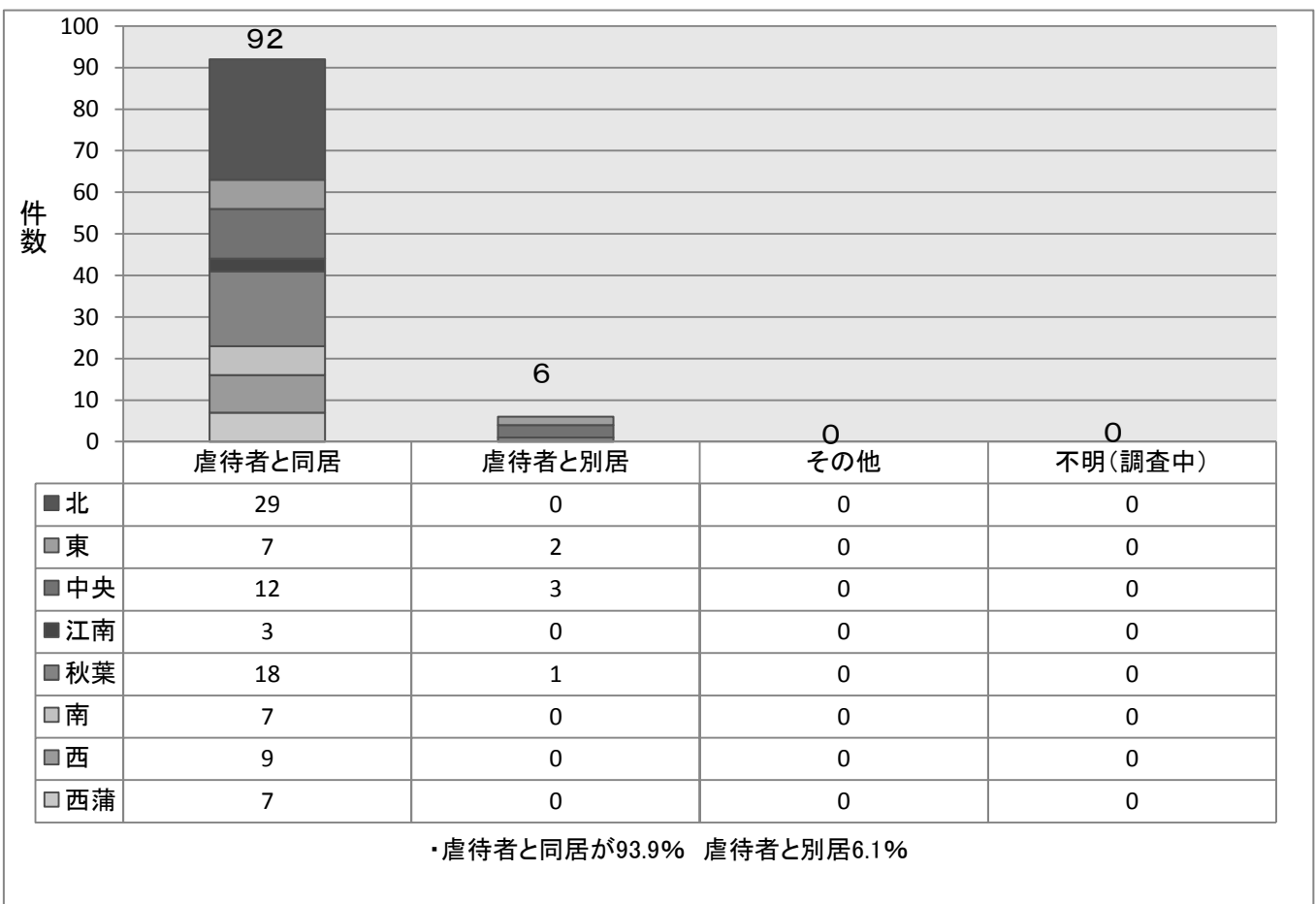
⑩被虐待者の認知症の有無

n=74



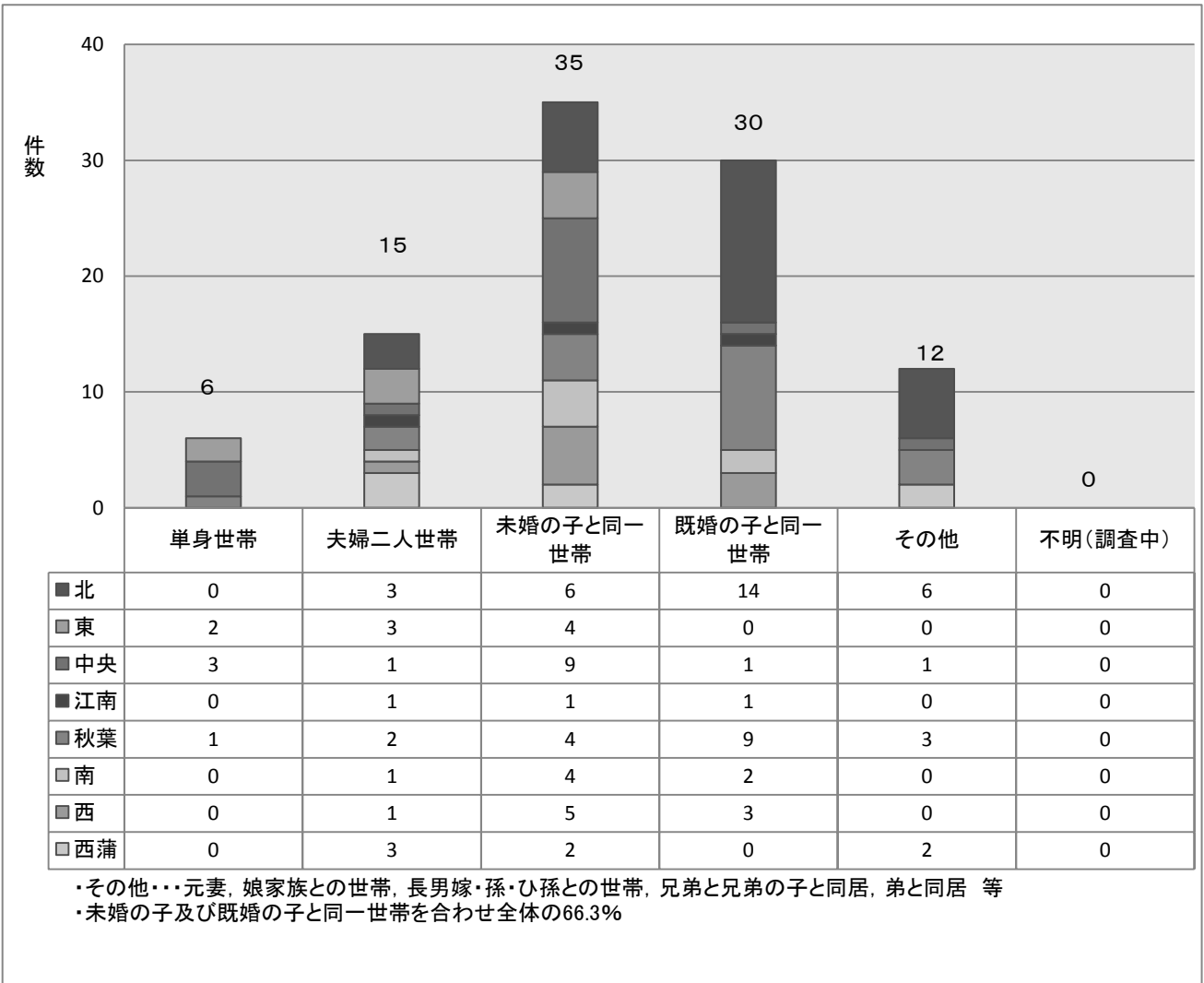
⑪虐待者との居住形態

n=98



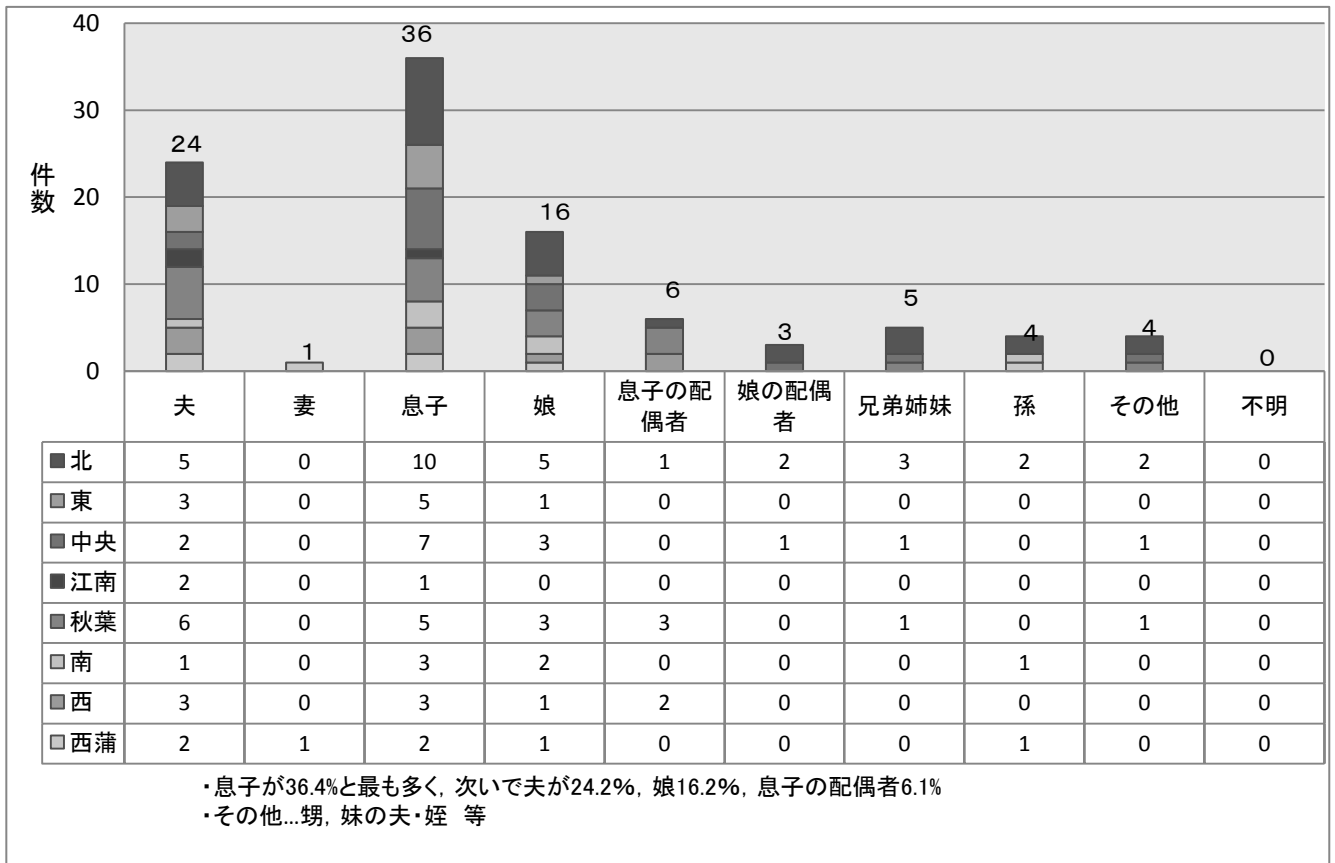
⑫世帯構成

n=98



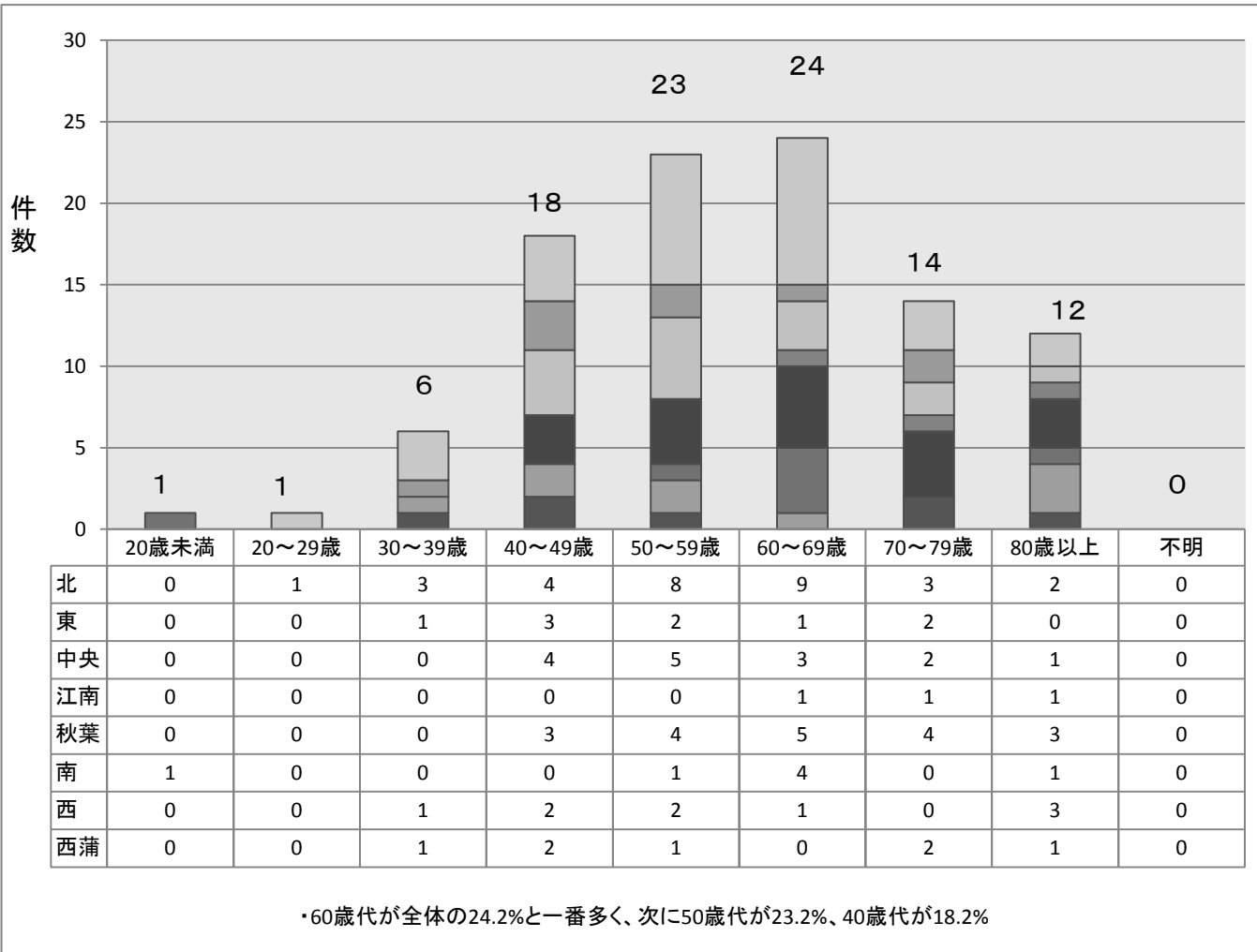
⑬虐待者の続柄(複数回答)

n=99



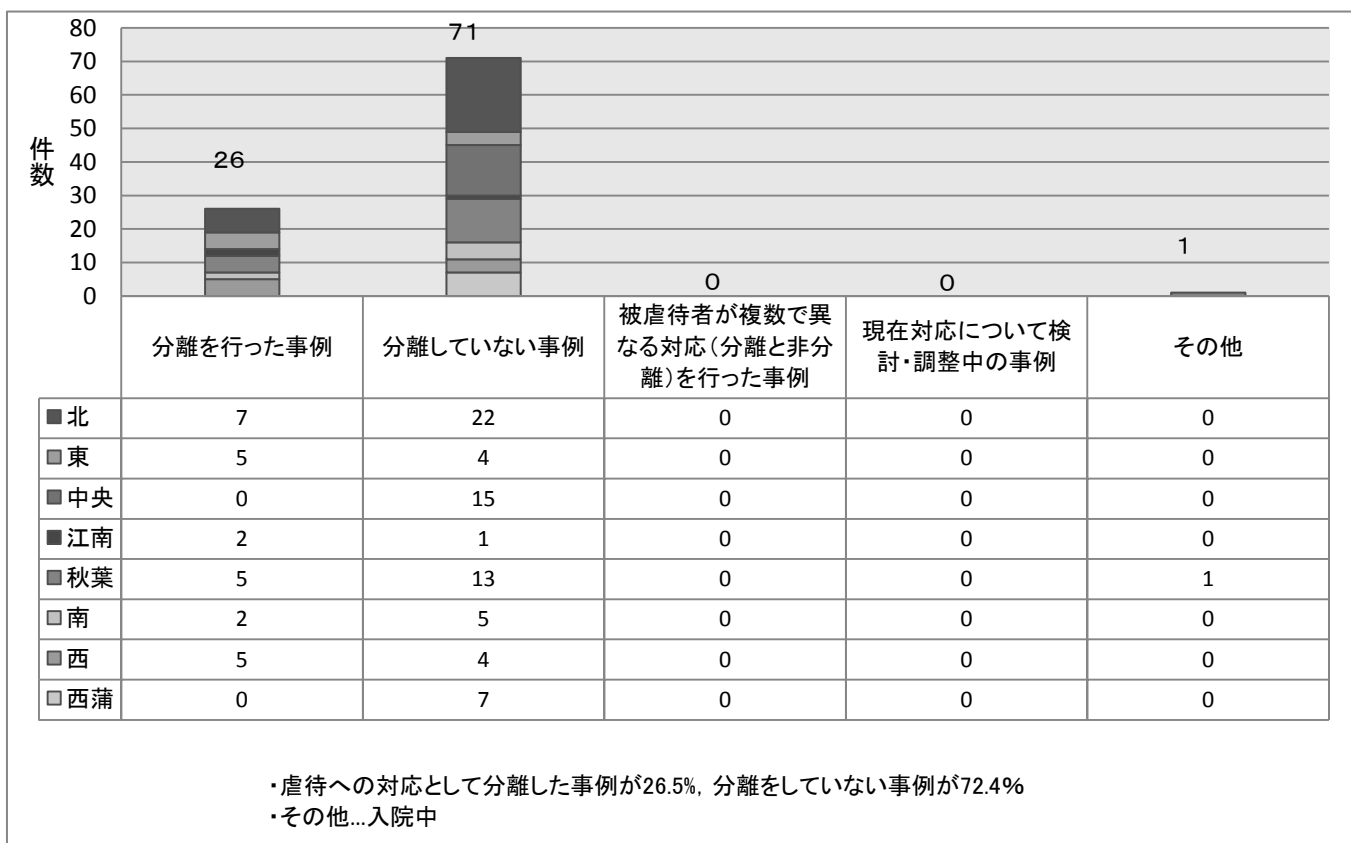
⑭ 虐待者の年齢

n=99



⑮ 虐待者との分離の有無

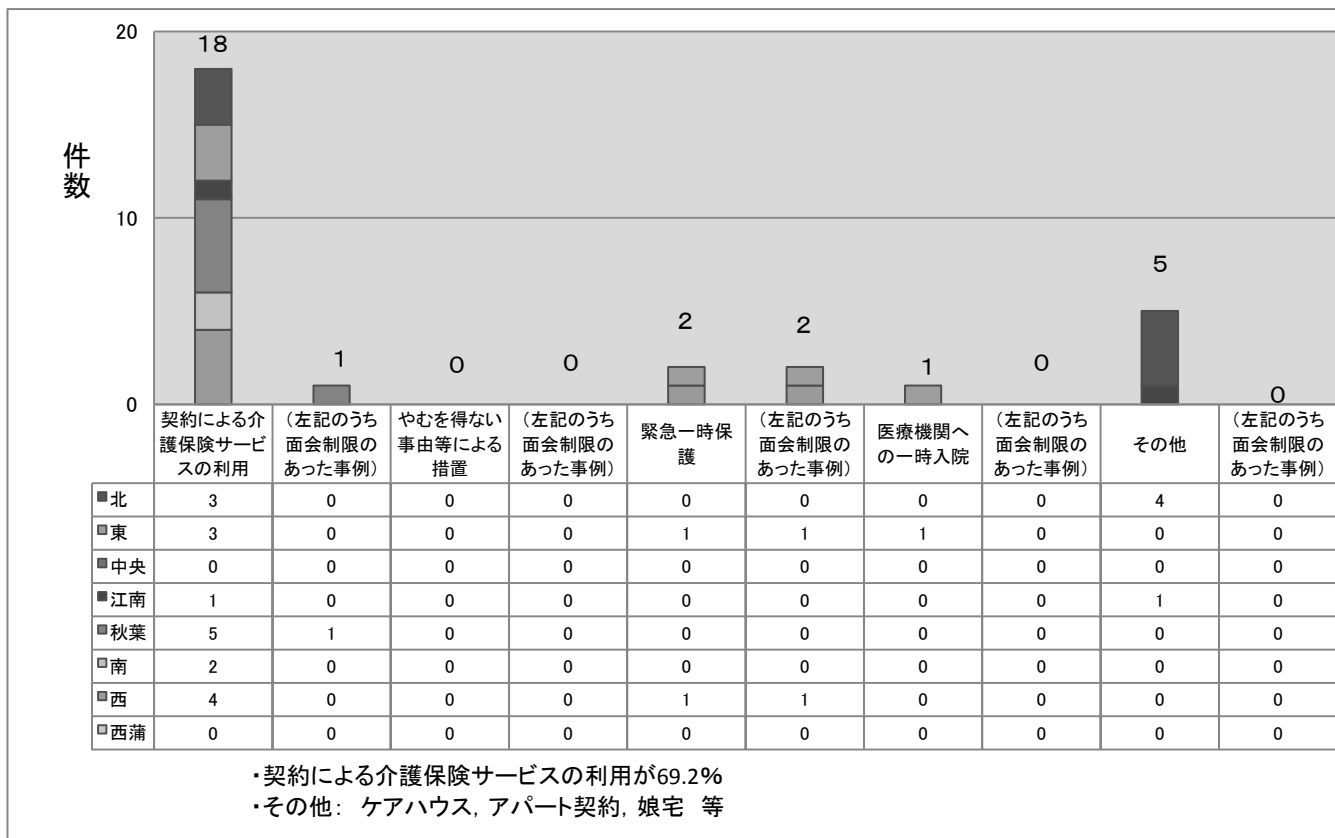
n=98





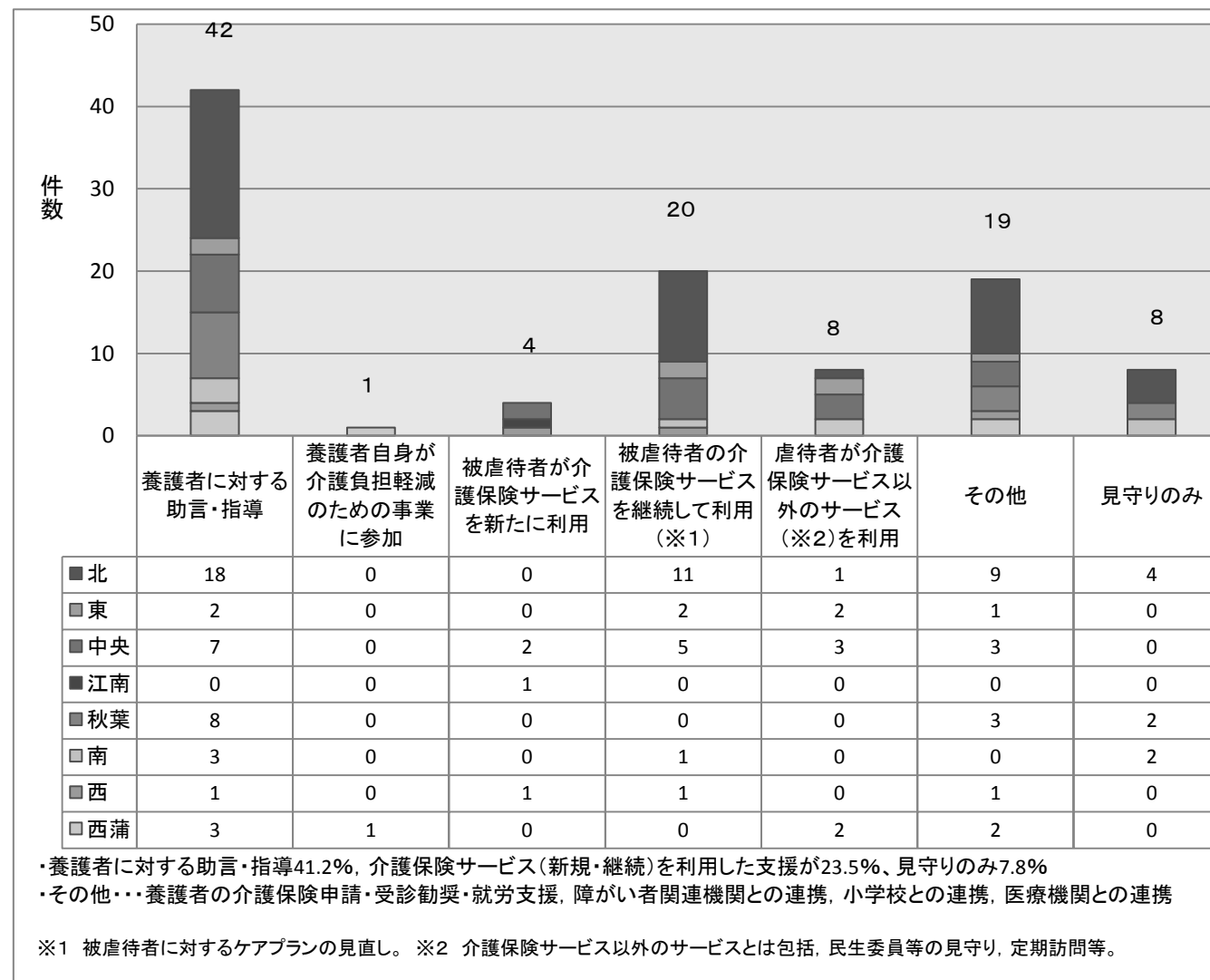
⑩分離を行った事例の対応の内訳

n=29



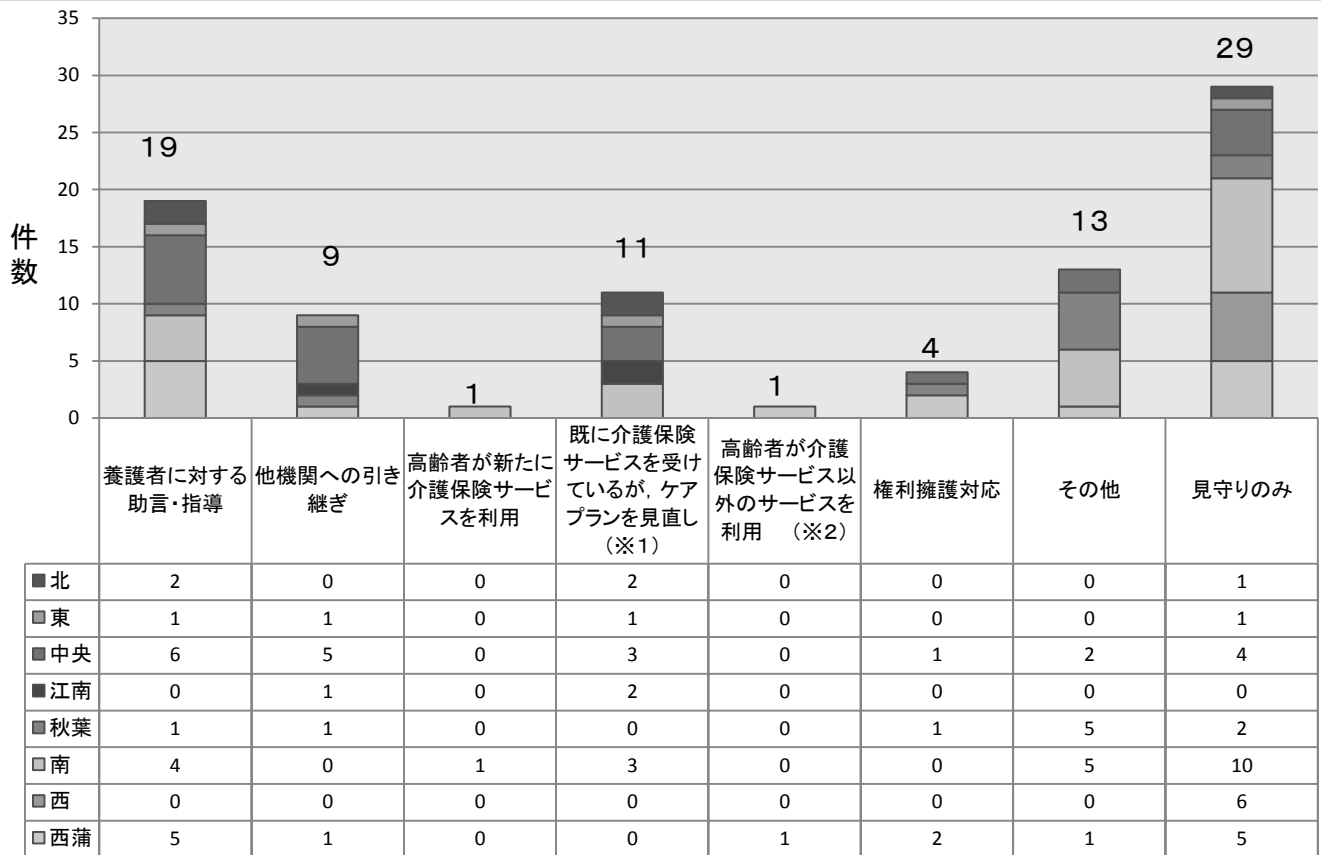
⑪分離していない事例の対応の内訳(見守りのみ以外複数回答)

n=102



⑱ 虐待ではない又は虐待の判断に至らなかった事例の対応の内訳 (見守りのみ以外重複有)

n=87

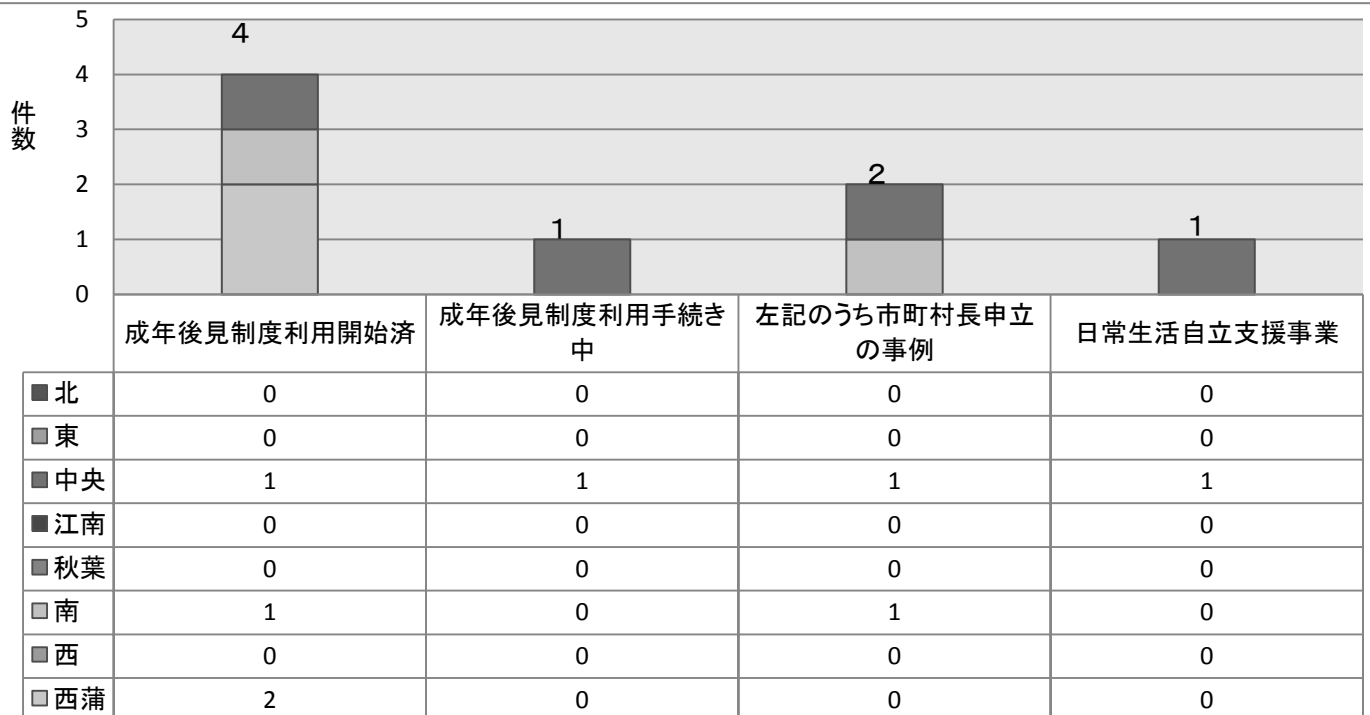


- ・見守りのみが33.3% 養護者に対する助言指導21.8%, 介護保険サービス(新規・継続)を利用した支援が13.8%
- ・他機関への引き継ぎ・・・DV相談機関, 法テラス, こころの健康センター等
- ・その他・・・虐待者の転居, 施設入居, 事実確認の継続, 高齢者の入院等

※1 被虐待者に対するケアプランの見直し ※2 介護保険サービス以外のサービスとは包括, 民生委員等の見守り, 定期訪問等

⑲ 権利擁護に関する対応 (前年度以前からの継続ケースへの対応を含む)

n=8



・成年後見制度利用は5件。そのうち市長申立ては2件 日常生活自立支援事業の利用は1件